

## 企業分析レポート

(乳製品業界分析)

**森永乳業株式会社**

**MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.**

東京証券取引所プライム市場 [2264]

会計基準：日本基準

決算日：3月31日（年1回）

分析期間・分析年度

6年間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）－ 2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

**雪印メグミルク株式会社**

**MEGMILK SNOW BRAND Co.,Ltd**

東京証券プライム市場、札幌証券取引所 [2270]

会計基準：日本基準

決算日：3月31日（年1回）

分析期間・分析年度

6年間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）－ 2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

**株式会社ヤクルト本社**

**Yakult Honsha Co.,Ltd.**

東京証券取引所プライム市場 [2267]

会計基準：日本基準

決算日：3月31日（年1回）

分析期間・分析年度

6年間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）－ 2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）

**経済学部 経済学科 2学年**

**学籍番号 2311510000 氏名**

分析グレード グレード1

## 設問①企業概要と経営基礎分析

# 森永乳業株式会社

1949年4月設立

### 従業員数

7,415 人

### 事業内容

食品事業(市乳、乳製品、アイスクリーム、飲料など)  
その他の事業(飼料、プラント設備の設計施工など)

### 関係会社

#### [主な連結子会社]

森永乳業販売(株)、東北森永乳業(株)  
(株)フリジポート、広島森永乳業(株)  
エムケーチーズ(株)、森永乳業クリニコ(株)

#### [持分法適用関連会社]

南京森旺乳業有限公司

### 上場証券取引所

東京証券取引所プライム市場 [2264]

### 経営理念

培った技術を活かし 私たちならではの商品をお届けすることで  
健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」

### スローガン

「かがやく“笑顔”のために」

### 沿革（重要なものを抜粋）

1917 年 9 月	日本煉乳株式会社設立
1949 年 4 月	森永乳業株式会社設立
1954 年 9 月	東京証券取引所に株式上場
2022 年 4 月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場に移行

## 中長期計画

「森永乳業グループ 10 年ビジョン」を設定

### 10 年後のグループのありたい姿

『食のおいしさ・楽しさ』と『健康・栄養』を両立した企業へ  
世界で独自の存在感を発揮できるグローバル企業へ  
サステナブルな社会の実現に貢献し続ける企業へ

### 数値目標

営業利益率 7 %以上

ROE10%以上

海外売上高比率 15%以上

## 事業等のリスク

### 酪農乳業界について

森永乳業グループが生産する乳製品は、国内農業の保護を目的として関税制度が設けられているが、関税制度が大幅に変更になることで、グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性がある。

### 原材料の調達リスクについて

森永乳業グループの主要な原材料は、国内外の需給状況や関税制度の変化、原材料相場や為替相場などにより、価格に影響を受ける可能性がある。

# 雪印メグミルク株式会社

2009年10月設立

## 従業員数

5,731（2024年3月現在）

## 事業内容

乳製品

飲料・デザート類

飼料・種苗

その他

## 関係会社

### 〔主な連結子会社〕

雪印種苗(株)、雪印ビーンスターク(株)

八ヶ岳乳業(株)、(株)クレスコ

甲南油脂(株)、(株)雪印パーラー

### 〔持分法適用関連会社〕

イーエヌ大塚製薬(株)、北網運輸(株)

## 上場証券取引所

東京証券プライム市場、札幌証券取引所 [2270]

## 企業理念

### スローガン

「未来は、ミルクの中にある。」

## 使命

消費者重視経営の実施

酪農生産への貢献

乳（ミルク）にこだわる

## 沿革（重要なものを抜粋）

1925 年 5 月	有限責任北海道製酪販売組合設立
1950 年 6 月	雪印乳業(株)設立
1950 年 8 月	雪印乳業(株)、東京証券取引所・札幌証券取引所に株式上場
2003 年 1 月	雪印乳業(株)より分離した市乳事業部門・全国農協直販(株)・ジャパンミルクネット(株)が統合し、日本ミルクコミュニティ(株)設立
2009 年 10 月	日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)が経営統合し、共同持株会社「雪印メグミルク(株)」設立、東京証券取引所市場第一部、札幌証券取引所に株式上場
2022 年 4 月	東京証券取引所の市場区分見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行

## 中長期計画

「雪印メグミルクグループ中期経営計画 2025」を制定

社会課題解決を目指す「健士健民」という創業の精神で乳で培われた私たちの幅広い知見や機能（ミルクバリューチェーン）によって食の持続性を実現する

## 事業等のリスク

### 酪農乳業界

雪印メグミルクグループの主要原料である加工原料乳の取引は「畜産経営の安定に関する法律」に基づく交付対象数量、補給金単価等の変更がグループの原料調達等に影響を及ぼす可能性がある。

### 家畜伝染病

家畜伝染病が発生した場合、風評被害などにより国内の生乳を使用した商品の消費減少の可能性がある。また、当該伝染病の対応により乳牛が淘汰された場合、飼育頭数の減少に伴う生乳生産量の減少や飼料需要の減退による飼料販売の減少等により雪印メグミルクグループの業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

# 株式会社ヤクルト本社

1955年4月設立

## 従業員数

29,627人(2024年3月時点)

## 事業内容

### 〔飲料および食品製造販売事業〕

乳製品、清涼飲料、その他の食品、輸送事業、海外での事業、販売用資材等

### 〔医療品製造販売事業〕

医薬品

### 〔その他事業〕

化粧品、プロ野球興行

## 関係会社

### 〔主な連結子会社〕

東京ヤクルト販売株式会社、株式会社岡山和気ヤクルト工場

ヤクルト商事株式会社、株式会社ヤクルトマテリアル

ヤクルトヘルスフーズ株式会社

ヤクルトロジスティクス株式会社

### 〔持分法適用関連会社〕

韓国ヤクルト株式会社

## 上場証券取引所

東京証券取引所プライム市場 [2267]

## 企業理念

「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します」

## 経営方針の基本方針

人々が健康とゆとりと生きがいを実感できる生活づくりに貢献し、地域社会とともに発展する企業を目指す

## 沿革（重要なものを抜粋）

年月	概要
1955 年 4 月	東京都中央区西八丁堀 4 丁目 4 番地に資本金 200 万円をもって、株式会社ヤクルト本社を設立。
1964 年 3 月	ヤクルトグループ初の海外事業所として、台湾ヤクルト株式会社(2003 年 7 月に同社株式の 15%、2005 年 1 月に 5 %、2006 年 3 月に 5 %を取得し、現在の持株比率は 25%。現持分法適用会社)が営業を開始
1969 年 4 月	北海道、東北、中部、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州の 9 支店を設置。
1980 年 1 月	東京証券取引所市場第二部へ株式上場。
1981 年 7 月	東京証券取引所市場第一部へ株式上場。
2022 年 4 月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行。

## 長期的な経営戦略

ヤクルトグループとしての成長を維持し変化に対応していくための道標として、2021 年度から 2030 年度までの長期ビジョン「YakultGroupGlobalVision2030」を策定

### 《目指す姿》

「世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化」

### 《定性目標》

- ・世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする
- ・一人ひとりに合わせた「新しい価値」をお客さまへ提供する
- ・人と地球の共生社会を実現する

## 事業等のリスク

### ヤクルト類への依存および競争環境等に関するリスク

主要商品である「乳酸菌シロタ株」を使用したヤクルト類が売上高の大部分を占めている。ヤクルトグループの乳製品よりも優れた健康上の効果があるとされる、もしくはより低価格な競合乳製品の登場によるさらなる競争の激化の結果、業績に影響を与えるリスクがある

### ヤクルトグループの販売体制に関するリスク

ヤクルトレディによる販売が主流。ヤクルトレディとの良好な関係を維持できない場合や海外事業の深耕・拡大に伴い必要となるヤクルトレディを含む適切な人材を確保できない場合、業績に影響を与えるリスクがある。

※「森永乳業株式会社」、「雪印メグミルク株式会社」、「株式会社ヤクルト本社」は、以下「森永乳業」、「雪印メグミルク」、「ヤクルト本社」と記載する。

## SWOT 分析

### 森永乳業株式会社

	プラス要因	マイナス要因
内部要因	<b>強み</b> 売上高・シェアランキング業界 1 位 幅広い年齢層に向けた商品	<b>弱み</b> 販管費が高い
	<b>機会</b> コロナ禍における栄養・機能性食品の売上増加	<b>脅威</b> 業界内の競争が激しい

### 雪印メグミルク株式会社

	プラス要因	マイナス要因
内部要因	<b>強み</b> 男性の育児休業取得率が高い 従業員が自分で選べる働き方を提供	<b>弱み</b> あまり海外展開していない
	<b>機会</b> コロナ禍における機能付加商品の売上増加	<b>脅威</b> 業界内の競争が激しい

### ヤクルト本社

	プラス要因	マイナス要因
内部要因	<b>強み</b> 従業員数が多い 事業の種類が豊富	<b>弱み</b> 販管費が高い 飲料・食品以外の売上が伸びていない
	<b>機会</b> コロナ禍における「ヤクルト 1000」をはじめとする高付加価値商品の売上増加	<b>脅威</b> 業界内の競争が激しい 「ヤクルト」ブランドの毀損



SWOT 分析の結果、各社で共通のものとしては、コロナウイルスの影響で人々の健康意識が高まり高付加価値商品の売上げが増加しているという点である。また、この3社は売上高・シェア数が僅差であるため競争が激しい。

次に各社別にみると、森永乳業は生まれたばかりの赤ちゃんに向けた育児用ミルクをはじめとして幅広い年齢層に向けた商品を開発している点が強みである。

また、雪印メグミルクは、リモートワークを取り入れるなど従業員が自分で働き方を選択できるようにしている所が強みである。

最後に、ヤクルト本社は、他の2社に比べ医薬品の開発にも取り組んでいたりと事業の種類が豊富である点が強みである。だが、「ヤクルト」をはじめとする飲料・食品以外の売上げが伸び悩んでいる。また、「ヤクルト」は社名と主力品名に共通するブランドであり、この名称を使用する商品や関係者に不祥事があった場合ブランドイメージに多大な影響を及ぼす可能性がある点が脅威である。

## 設問② 要約連結財務諸表と会計基礎分析

森永乳業株式会社

[単位：百万円]

連結貸借対照表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
資産合計	432,256	436,061	453,646	458,788	487,441	565,998
流動資産	140,077	145,403	155,615	164,127	179,189	229,039
現金及び預金	3,685	8,680	19,262	23,607	21,096	64,528
有価証券	0	0	0	0	0	0
固定資産	292,178	290,658	298,030	294,660	308,252	336,958
有形固定資産	252,130	251,226	254,336	247,446	249,355	268,960
無形固定資産	6,525	6,518	7,968	9,735	22,903	27,321
投資その他の資産	33,523	32,913	35,724	37,479	35,922	40,677
繰延資産	0	0	0	0	0	0
負債合計	263,088	252,918	251,142	250,762	259,192	283,862
流動負債	162,510	149,890	144,906	142,500	156,607	192,682
固定負債	100,578	103,028	106,236	108,261	102,585	91,179
純資産合計	169,167	183,142	202,503	208,026	228,249	282,135
資本金	21,731	21,760	21,787	21,821	21,821	21,821
資本剰余金	19,886	19,919	19,947	19,980	19,985	19,998
利益剰余金	121,831	137,767	153,540	183,884	186,518	233,741
自己株式（減算）	-702	-690	-708	-25,476	-14,316	-14,241
株主資本合計 ⑪	162,745	178,757	194,566	200,210	214,009	261,320
その他の包括利益累計額合計 ⑫	4,661	2,526	4,787	5,685	8,893	15,746
自己資本 = ⑪+⑫	167,406	181,283	199,353	205,895	222,902	277,066
株式引受権・新株予約権	229	203	203	174	124	116
非支配株主持分	1,531	1,655	2,945	1,955	5,222	4,951
負債・純資産合計	432,256	436,061	453,646	458,788	487,441	565,998

## 森永乳業株式会社

[単位：百万円]

連結損益及び包括利益計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
売上高・営業収益	583,582	590,892	583,550	503,354	525,603	547,059
売上原価	398,337	401,538	393,478	381,077	407,308	415,100
売上総利益	182,245	189,354	190,072	122,277	118,295	131,958
販売費及び一般管理費	162,913	163,995	161,204	92,484	94,355	104,119
総原価	0	0	0	0	0	0
営業利益	22,331	25,359	28,867	29,792	23,939	27,839
営業外収益	2,563	2,229	2,888	2,542	2,488	3,717
営業外費用	1,720	1,721	1,646	1,207	1,210	3,452
経常利益	23,174	25,867	30,109	31,127	25,218	28,104
特別利益	421	7,023	1,462	21,464	3,521	65,979
特別損失	3,364	6,384	5,573	4,296	5,020	5,512
税金等調整前当期純利益	20,230	26,506	25,998	48,296	23,719	88,571
法人税等合計	6,044	7,687	7,095	14,369	6,699	27,224
当期純利益	14,186	18,819	18,903	33,926	17,019	61,347
非支配株主に帰属する当期純利益	168	162	161	143	144	39
親会社株主に帰属する当期純利益	14,017	18,656	18,741	33,782	16,875	61,307

## 森永乳業株式会社

[単位：百万円]

連結キャッシュ・フロー計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
営業活動による C F ①	18,506	29,209	38,544	40,268	19,382	56,583
投資活動による C F ②	-38,817	-13,193	-25,305	8,371	-25,463	25,223
フリー・キャッシュ・フロー ①+②	-20,311	16,016	13,239	48,639	-6081	81,806
財務活動による C F	14,112	-10,843	-2,627	-44,522	2,925	-38,624
現金及び現金同等物の換算差額	-254	-51	19	169	223	371
現金及び現金同等物の純増加額	-6,454	5,121	10,630	4,286	-2,931	43,552
現金及び現金同等物の期首残高	9,838	3,384	8,505	19,138	23,486	20,976
現金及び現金同等物の期末残高	3,384	8,505	19,138	23,486	20,976	64,528

## 雪印メグミルク株式会社

[単位：百万円]

連結貸借対照表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
資産合計	359,445	370,434	398,650	401,890	410,130	431,222
流動資産	148,863	151,187	161,716	160,139	164,163	181,767
現金及び預金	14,366	15,536	21,840	19,991	20,351	29,001
有価証券	0	0	0	0	0	0
固定資産	210,582	219,246	236,933	241,751	245,966	249,454
有形固定資産	162,304	171,031	177,277	178,892	180,101	177,541
無形固定資産	3,206	3,727	3,512	3,291	3,188	4,499
投資その他の資産	45,072	44,487	56,143	59,566	62,676	67,414
繰延資産	0	0	0	0	0	0
負債合計	190,662	192,339	200,394	192,361	194,230	195,921
流動負債	117,924	120,319	128,558	113,134	116,904	122,474
固定負債	72,738	72,019	71,835	79,226	77,325	73,447
純資産合計	168,782	178,094	198,255	209,528	215,899	235,300
資本金	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
資本剰余金	17,586	17,606	17,607	17,027	17,027	17,027
利益剰余金	116,474	125,489	137,941	147,231	151,908	167,278
自己株式（減算）	-4,942	-4,961	-5,355	-5,347	-5,327	-5,322
株主資本合計 ⑪	149,117	158,134	170,192	178,911	183,609	198,983
その他の包括利益累計額合計 ⑫	17,177	16,977	25,020	27,866	29,270	33,102
自己資本 =⑪+⑫	166,294	175,111	195,212	206,777	212,879	232,085
株式引受権・新株予約権	0	0	0	0	0	0
非支配株主持分	2,487	2,982	3,042	2,750	3,020	3,214
負債・純資産合計	359,445	370,434	398,650	401,890	410,130	431,222

## 雪印メグミルク株式会社

[単位：百万円]

連結損益及び包括利益計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
売上高・営業収益	603,378	613,405	615,186	558,403	584,308	605,424
売上原価	460,868	470,209	472,574	468,961	497,117	507,142
売上総利益	142,510	143,196	142,612	89,441	87,191	98,282
販売費及び一般管理費	125,279	125,197	122,831	71,382	74,136	79,821
総原価	0	0	0	0	0	0
営業利益	17,230	17,998	19,780	18,059	13,054	18,460
営業外収益	2,889	2,821	3,024	2,987	2,467	2,942
営業外費用	1,105	1,140	1,142	1,060	1,041	1,515
経常利益	19,014	19,680	21,662	19,987	14,480	19,888
特別利益	533	107	3,152	6	3,322	11,575
特別損失	4,273	2,903	3,659	2,768	4,809	3,579
税金等調整前当期純利益	15,273	16,885	21,156	17,226	12,993	27,884
法人税等合計	4,343	4,593	6,177	4,998	3,812	8,299
当期純利益	10,930	12,291	14,978	12,227	9,180	19,585
非支配株主に帰属する当期純利益	176	126	64	159	50	154
親会社株主に帰属する当期純利益	10,754	12,165	14,913	12,068	9,129	19,430

## 雪印メグミルク株式会社

[単位：百万円]

連結キャッシュ・フロー計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
営業活動による C F ①	21,938	24,322	26,567	29,421	26,807	30,465
投資活動による C F ②	-14,248	-16,629	-27,076	-20,206	-19,624	-6,308
フリー・キャッシュ・フロー ①+②	7,690	7,693	-509	9,215	7,183	24,157
財務活動による C F	-7,396	-6,651	6,771	-11,262	-7,286	-15,645
現金及び現金同等物の換算差額	-65	9	42	197	135	137
現金及び現金同等物の純増加額	227	1,052	6,305	-1,849	32	8,649
現金及び現金同等物の期首残高	14,076	14,303	15,524	21,829	19,979	20,338
現金及び現金同等物の期末残高	14,303	15,524	21,829	19,979	20,338	28,988

## 株式会社ヤクルト本社

[単位：百万円]

連結貸借対照表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
資産合計	618,532	627,871	635,102	672,855	749,419	833,286
流動資産	247,637	265,806	266,800	300,398	354,195	372,161
現金及び預金	156,484	175,638	176,254	202,941	241,185	255,257
有価証券	0	0	0	0	0	0
固定資産	370,895	362,064	368,301	372,456	395,224	461,125
有形固定資産	200,071	203,996	203,045	211,156	225,122	260,998
無形固定資産	4,782	4,450	5,380	5,386	5,570	6,569
投資その他の資産	166,040	153,617	159,875	155,913	164,531	193,558
繰延資産	0	0	0	0	0	0
負債合計	226,253	215,788	195,341	187,920	203,922	227,340
流動負債	115,455	109,062	93,546	89,281	147,645	145,567
固定負債	110,798	106,725	101,794	98,639	56,277	81,772
純資産合計	392,279	412,082	439,761	484,935	545,496	605,946
資本金	31,117	31,117	31,117	31,117	31,117	31,117
資本剰余金	41,742	41,475	40,937	41,116	41,572	42,090
利益剰余金	347,740	379,948	411,359	446,331	484,243	519,641
自己株式（減算）	-54,833	-54,933	-52,725	-64,395	-81,927	-111,235
株主資本合計 ⑪	365,767	397,607	430,688	454,169	475,006	481,613
その他の包括利益累計額合計 ⑫	-8,495	-24,228	-25,737	-8,101	23,652	67,671
自己資本 =⑪+⑫	357,272	373,379	404,951	446,068	498,658	549,284
株式引受権・新株予約権	0	0	0	0	0	0
非支配株主持分	35,007	38,702	34,810	38,867	46,837	56,661
負債・純資産合計	618,532	627,871	635,102	672,855	749,419	833,286

## 株式会社ヤクルト本社

[単位：百万円]

連結損益及び包括利益計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
売上高・営業収益	407,017	406,004	385,706	415,116	483,071	503,079
売上原価	171,107	171,378	158,885	166,699	194,593	203,166
売上総利益	235,910	234,625	226,821	248,416	288,477	299,913
販売費及び一般管理費	190,064	188,950	183,127	195,213	222,409	236,513
総原価	0	0	0	0	0	0
営業利益	45,846	45,675	43,694	53,202	66,068	63,399
営業外収益	12,880	14,775	15,388	16,768	14,250	18,448
営業外費用	1,604	1,972	1,481	1,420	2,347	2,547
経常利益	57,121	58,478	57,601	68,549	77,970	79,300
特別利益	3,439	2,715	4,520	4,279	4,248	3,310
特別損失	4,760	2,465	2,786	3,349	3,690	2,244
税金等調整前当期純利益	55,801	58,728	59,336	69,479	78,529	80,366
法人税等合計	15,619	13,889	15,844	20,197	22,636	22,528
当期純利益	40,182	44,838	43,491	49,281	55,892	57,838
非支配株主に帰属する当期純利益	5,247	5,103	4,223	4,364	5,251	6,832
親会社株主に帰属する当期純利益	34,935	39,735	39,267	44,917	50,641	51,006

## 株式会社ヤクルト本社

[単位：百万円]

連結キャッシュ・フロー計算書	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期
営業活動による C F ①	62,125	62,791	55,820	73,390	86,513	70,702
投資活動による C F ②	-37,012	-16,060	-19,623	-11,875	-19,024	-43,906
フリー・キャッシュ・フロー ①+②	25,113	46,731	36,197	61,515	67,489	26,796
財務活動による C F	-22,980	-25,631	-31,254	-45,156	-44,531	-39,541
現金及び現金同等物の換算差額	-4,896	290	-6,736	11,601	16,806	19,904
現金及び現金同等物の純増加額	-2,764	21,389	-1,794	27,959	39,763	7,158
現金及び現金同等物の期首残高	105,936	103,171	124,561	122,766	150,725	190,489
現金及び現金同等物の期末残高	103,171	124,561	122,766	150,725	190,489	197,648

### 設問③ 財務分析表

#### 森永乳業株式会社

財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	6 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>収益性分析</b>							
R O E	8.5%	10.4%	9.5%	16.5%	7.6%	22.1%	12.4%
R O A [営業利益]	5.2%	5.8%	6.4%	6.5%	4.9%	4.9%	5.6%
R O A [経常利益]	5.4%	5.9%	6.6%	6.8%	5.2%	5.0%	5.8%
R O A [当期純利益]	3.3%	4.3%	4.2%	7.4%	3.5%	10.8%	5.6%
R O A [最終利益]	3.3%	4.3%	4.2%	7.4%	3.5%	10.8%	5.6%
売上総利益率	31.7%	32.0%	32.6%	24.3%	22.5%	24.1%	27.9%
売上原価率	68.3%	68.0%	67.4%	75.7%	77.5%	75.9%	72.1%
売上高販管費比率	27.9%	27.8%	27.6%	18.4%	18.0%	19.0%	23.1%
売上高営業利益率	3.8%	4.3%	4.9%	5.9%	4.6%	5.1%	4.8%
売上高総原価率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
売上高経常利益率	4.0%	4.4%	5.2%	6.2%	4.8%	5.1%	4.9%
売上高税引前利益率	3.5%	4.5%	4.5%	9.6%	4.5%	16.2%	7.1%
売上高総費用比率	97.0%	97.1%	96.3%	95.2%	96.6%	96.5%	96.5%
売上高最終利益率	2.4%	3.2%	3.2%	6.7%	3.2%	11.2%	5.0%
総資本回転率	1.35	1.36	1.29	1.10	1.08	0.97	1.19
財務レバレッジ比率	2.58	2.41	2.28	2.23	2.19	2.04	2.29
<b>財政状態分析</b>							
流動比率	86.2%	97.0%	107.4%	115.2%	114.4%	118.9%	106.5%
自己資本比率	38.7%	41.6%	43.9%	44.9%	45.7%	49.0%	44.0%

#### 森永乳業株式会社

財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	5 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>成長性分析</b>							
売上高増加率	――	1.3%	-1.2%	-13.7%	4.4%	4.1%	-1.0%
営業利益増加率	――	13.6%	13.8%	3.2%	-19.6%	16.3%	5.4%
経常利益増加率	――	11.6%	16.4%	3.4%	-19.0%	11.4%	4.8%
最終利益増加率	――	32.7%	0.4%	79.5%	-49.8%	260.5%	64.6%
総資産増加率	――	0.9%	4.0%	1.1%	6.2%	16.1%	5.7%
純資産増加率	――	8.3%	10.6%	2.7%	9.7%	23.6%	11.0%
利益剰余金増加率	――	13.1%	11.4%	19.8%	1.4%	25.3%	14.2%



雪印メグミルク株式会社

財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	6 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>収益性分析</b>							
ROE	6.6%	7.0%	7.7%	5.9%	4.3%	8.4%	6.7%
ROA [営業利益]	4.8%	4.9%	5.0%	4.5%	3.2%	4.3%	4.4%
ROA [経常利益]	5.3%	5.3%	5.4%	5.0%	3.5%	4.6%	4.9%
ROA [当期純利益]	3.0%	3.3%	3.8%	3.0%	2.2%	4.5%	3.3%
ROA [最終利益]	3.0%	3.3%	3.8%	3.0%	2.2%	4.5%	3.3%
売上総利益率	23.6%	23.3%	23.2%	16.0%	14.9%	16.2%	19.6%
売上原価率	76.4%	76.7%	76.8%	84.0%	85.1%	83.8%	80.4%
売上高販管費比率	20.8%	20.4%	20.0%	12.8%	12.7%	13.2%	16.6%
売上高営業利益率	2.9%	2.9%	3.2%	3.2%	2.2%	3.0%	2.9%
売上高総原価率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
売上高経常利益率	3.2%	3.2%	3.5%	3.6%	2.5%	3.3%	3.2%
売上高税引前利益率	2.5%	2.8%	3.4%	3.1%	2.2%	4.6%	3.1%
売上高総費用比率	98.0%	97.7%	97.6%	97.5%	98.8%	97.8%	97.9%
売上高最終利益率	1.8%	2.0%	2.4%	2.2%	1.6%	3.2%	2.2%
総資本回転率	1.68	1.66	1.54	1.39	1.42	1.40	1.52
財務レバレッジ比率	2.16	2.12	2.04	1.94	1.93	1.86	2.01
<b>財政状態分析</b>							
流動比率	126.2%	125.7%	125.8%	141.5%	140.4%	148.4%	134.7%
自己資本比率	46.3%	47.3%	49.0%	51.5%	51.9%	53.8%	49.9%

雪印メグミルク株式会社

財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	5 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>成長性分析</b>							
売上高増加率	———	1.7%	0.3%	-9.2%	4.6%	3.6%	0.2%
営業利益増加率	———	4.5%	9.9%	-8.7%	-27.7%	41.4%	3.9%
経常利益増加率	———	3.5%	10.1%	-7.7%	-27.6%	37.3%	3.1%
最終利益増加率	———	12.5%	21.9%	-18.4%	-24.9%	113.3%	20.9%
総資産増加率	———	3.1%	7.6%	0.8%	2.1%	5.1%	3.7%
純資産増加率	———	5.5%	11.3%	5.7%	3.0%	9.0%	6.9%
利益剰余金増加率	———	7.7%	9.9%	6.7%	3.2%	10.1%	7.5%

株式会社ヤクルト本社

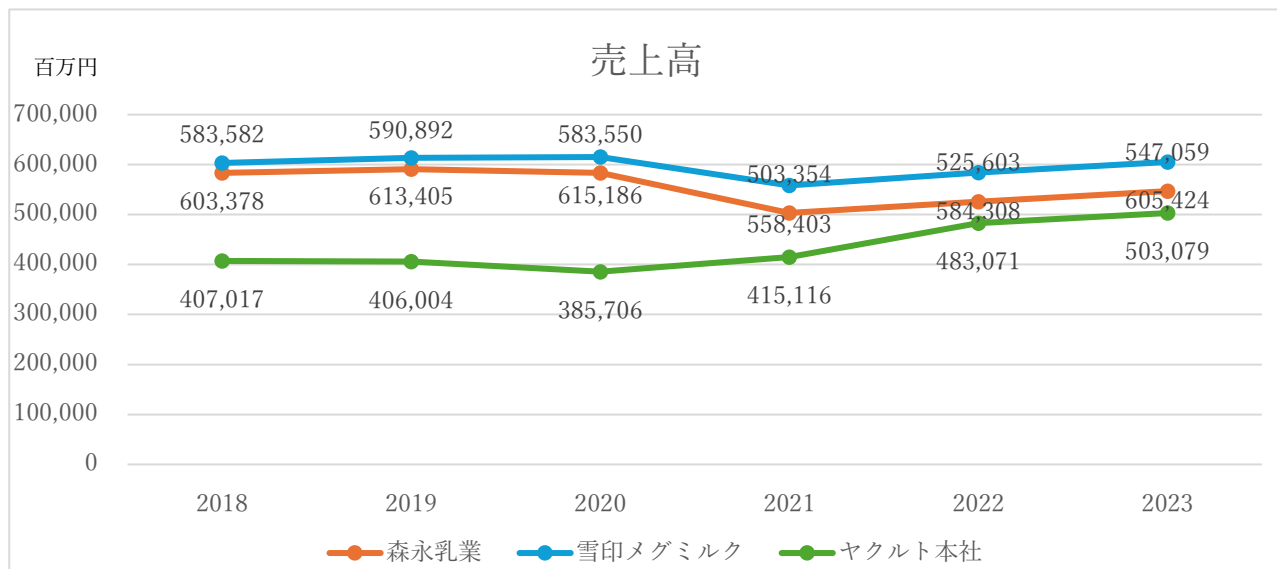
財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	6 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>収益性分析</b>							
R O E	11.2%	12.0%	10.7%	11.0%	11.2%	10.5%	11.1%
R O A [営業利益]	7.4%	7.3%	6.9%	7.9%	8.8%	7.6%	7.6%
R O A [経常利益]	9.2%	9.3%	9.1%	10.2%	10.4%	9.5%	9.6%
R O A [当期純利益]	6.5%	7.1%	6.8%	7.3%	7.5%	6.9%	7.0%
R O A [最終利益]	6.5%	7.1%	6.8%	7.3%	7.5%	6.9%	7.0%
売上総利益率	58.0%	57.8%	58.8%	59.8%	59.7%	59.6%	59.0%
売上原価率	42.0%	42.2%	41.2%	40.2%	40.3%	40.4%	41.0%
売上高販管費比率	46.7%	46.5%	47.5%	47.0%	46.0%	47.0%	46.8%
売上高営業利益率	11.3%	11.2%	11.3%	12.8%	13.7%	12.6%	12.2%
売上高総原価率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
売上高経常利益率	14.0%	14.4%	14.9%	16.5%	16.1%	15.8%	15.3%
売上高税引前利益率	13.7%	14.5%	15.4%	16.7%	16.3%	16.0%	15.4%
売上高総費用比率	90.3%	89.8%	89.8%	88.3%	87.6%	88.3%	89.0%
売上高最終利益率	9.9%	11.0%	11.3%	11.9%	11.6%	11.5%	11.2%
総資本回転率	0.66	0.65	0.61	0.62	0.64	0.60	0.63
財務レバレッジ比率	1.73	1.68	1.57	1.51	1.50	1.52	1.58
<b>財政状態分析</b>							
流動比率	214.5%	243.7%	285.2%	336.5%	239.9%	255.7%	262.6%
自己資本比率	57.8%	59.5%	63.8%	66.3%	66.5%	65.9%	63.3%

株式会社ヤクルト本社

財務分析表	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	5 年平均
	31 年 3 月期	2 年 3 月期	3 年 3 月期	4 年 3 月期	5 年 3 月期	6 年 3 月期	
<b>成長性分析</b>							
売上高増加率	―――	-0.2%	-5.0%	7.6%	16.4%	4.1%	4.6%
営業利益増加率	―――	-0.4%	-4.3%	21.8%	24.2%	-4.0%	7.4%
経常利益増加率	―――	2.4%	-1.5%	19.0%	13.7%	1.7%	7.1%
最終利益増加率	―――	11.6%	-3.0%	13.3%	13.4%	3.5%	7.8%
総資産増加率	―――	1.5%	1.2%	5.9%	11.4%	11.2%	6.2%
純資産増加率	―――	5.0%	6.7%	10.3%	12.5%	11.1%	9.1%
利益剰余金増加率	―――	9.3%	8.3%	8.5%	8.5%	7.3%	8.4%

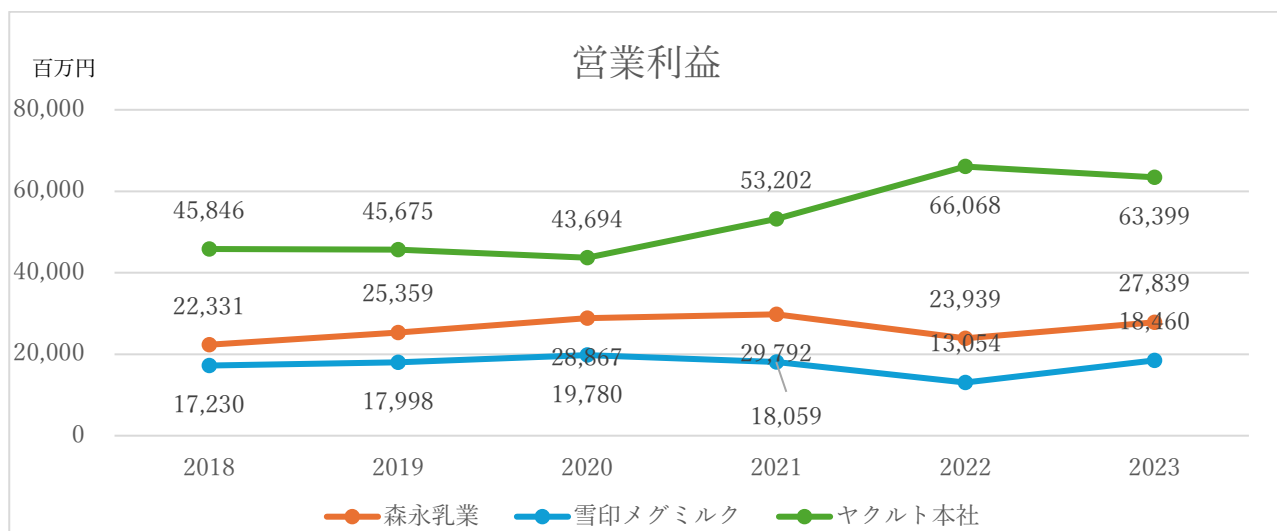
## 設問④ 財務諸表分析

### 売上高比較



ヤクルト本社は2018年～2020年まで売り上げが伸び悩んでいる。だが、2019年12月頃からコロナウイルスが流行したことで高付加価値商品の需要が高まり売上げも伸びた。一方で、森永乳業と雪印メグミルクはコロナ禍に売上げが少し減少したが2021年から持ち直している。

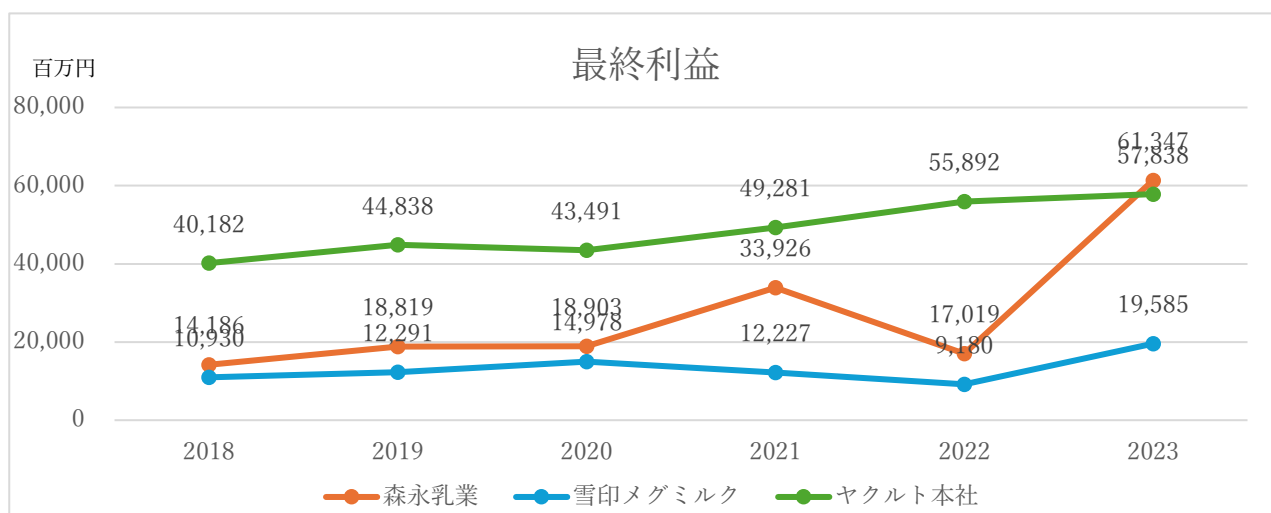
### 営業利益比較



営業利益は、企業の本業とする事業によって稼得した利益の金額で、企業の本業の業績を示す指標であり、本業とする事業で儲かっているか儲かっていないかの業績を表す利益である。

ヤクルト本社は、コロナ禍に「ヤクルト1000」をはじめとしたヤクルト製品が爆発的に売れたため2020年から営業利益が増加している。森永乳業と雪印メグミルクは2021年まで営業利益が緩やかに伸び、2022年で一時減少してから再び増加している。ヤクルト本社が2022年に営業利益が増加したことから他の2社が減少したのではないかと考える。

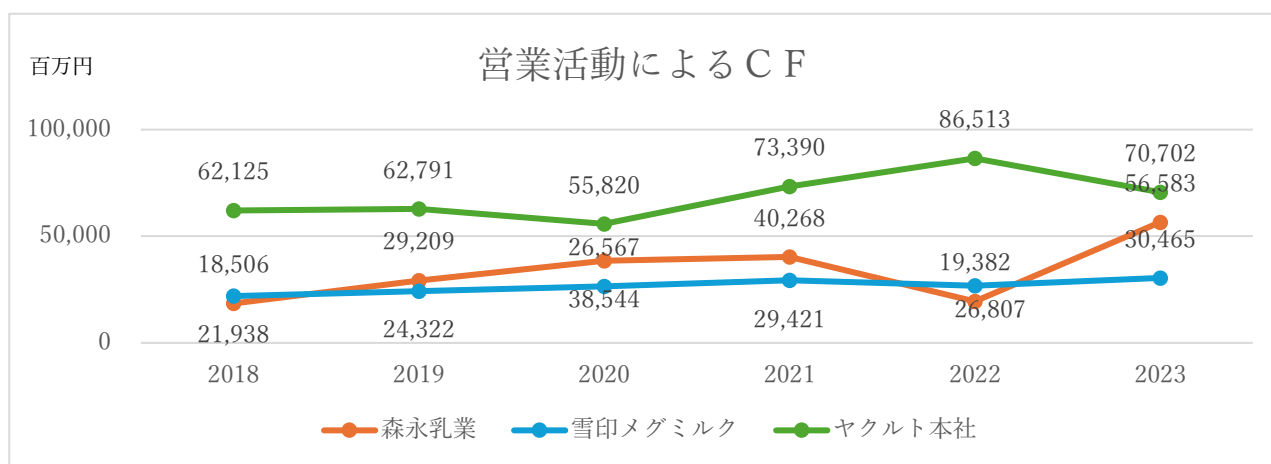
## 最終利益比較



最終利益とは、経常利益から特別損益を加味して税金を差し引いた額のこと。つまり、企業のある一定期間において最終的に得られる利益のことである。

森永乳業は2022年で最終利益が大幅に減少しているが、2023年には3社でトップまで上り詰めている。2022年11月から飲用・発酵乳用途向けの生乳取引価格の引き上げが行われ、生産のコストが上がり、利益が減ったと考える。雪印メグミルクとヤクルト本社は緩やかであり変化がない。

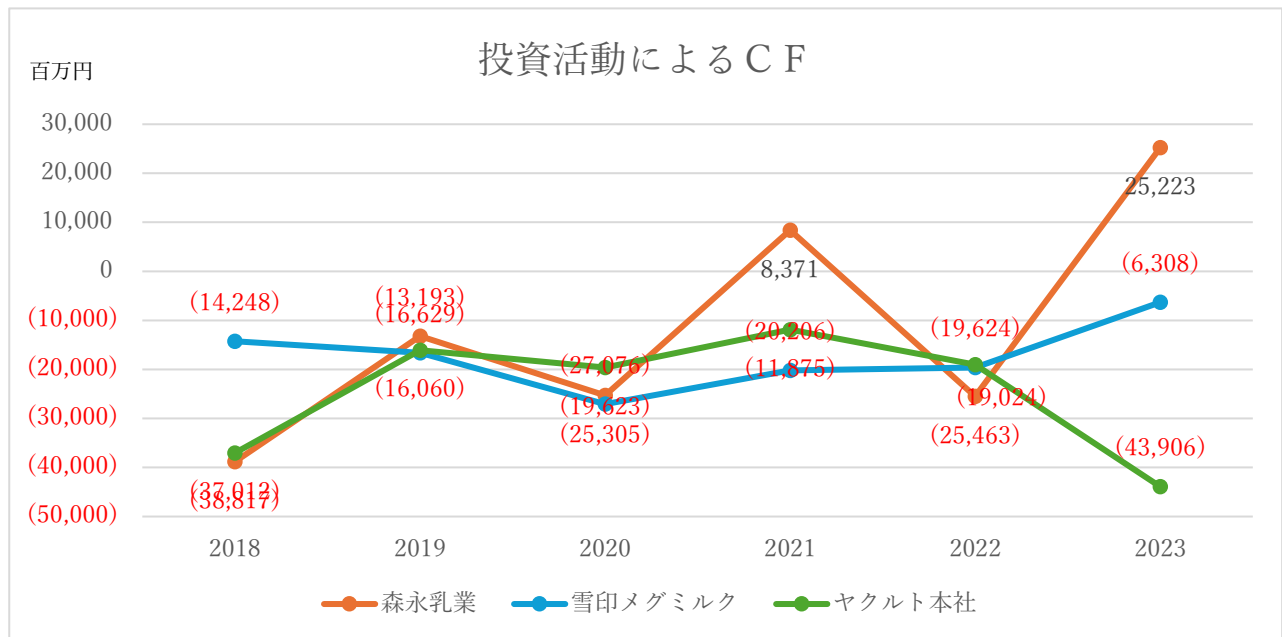
## 営業活動によるC F 比較



営業活動によるキャッシュ・フローは、企業集団の本業とする事業の基本業務活動において一会計期間中に生じた収入合計と支出合計の差額としての純収入（ネット・キャッシュ・フロー）金額であり、企業集団が一会計期間中に本業で稼ぎ出したキャッシュの金額である。この金額が多ければ多いほど、本業によってキャッシュを稼ぎ出しているといえ、望ましいと言える。

森永乳業は2022年で大幅に減少しているが2023年には減少する以前よりも増加している。2022年に減少している原因は原材料のコストアップだと考える。ヤクルト本社は2020年で僅かに減少しているが2020年にかけて順調に回復し、2023年に再び減少している。雪印メグミルクはあまり変化がない。

## 投資活動によるCF比較

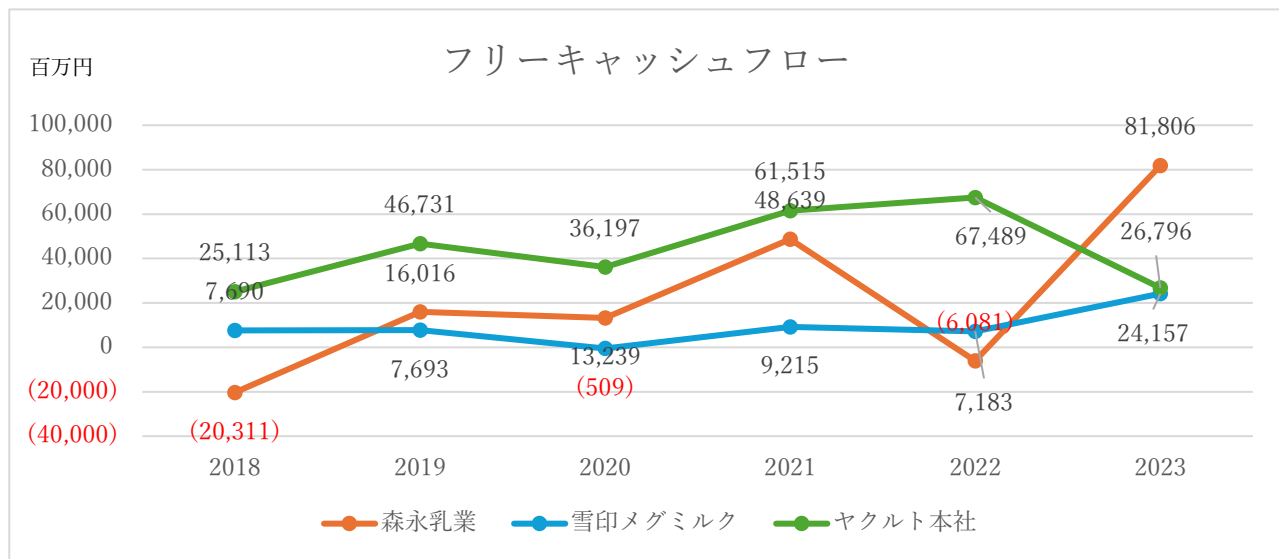


投資活動によるキャッシュ・フローは、企業集団の投資活動において一会計期間中に生じた支出合計と収入合計の差額としての純支出金額である。投資活動によるキャッシュ・フローは、通常、設備投資によりマイナスとなることが普通であり、成長している企業ほど設備投資が大きくなる。

森永乳業は2021年、2023年にあまり投資をしていないことが分かる。ヤクルト本社は2023年に最終利益が増加していることから、多大な投資活動が上手くいき企業の成長につながったのではないかと考える。

雪印メグミルクは2020年に最も投資活動を行っている。

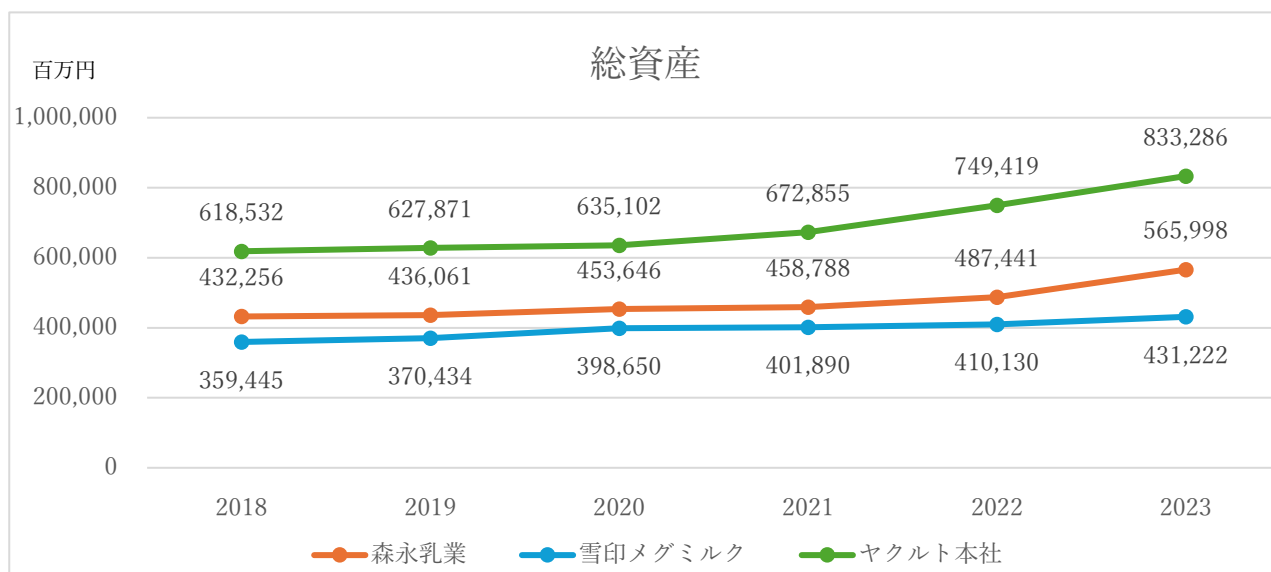
## フリーキャッシュフロー比較



フリー・キャッシュ・フローとは、営業活動で獲得したキャッシュ・フローから、事業の維持と将来の成長のために必要な設備投資などのキャッシュ・フローを差し引いた金額で、一会計期間の間に創出した、資金提供者である株主と債権者に自由に分配が可能なキャッシュ・フローを意味する。フリー・キャッシュ・フローを安定的に創出することができる企業は、収益性が高い。

森永乳業は2018年と2022年がマイナスであるが、2023年に3社トップまで増加している。雪印メグミルクとヤクルト本社は、2022年までは差があったものの2023年にはほぼ等しい。雪印メグミルクは3社の中で最も金額が低い安定している。

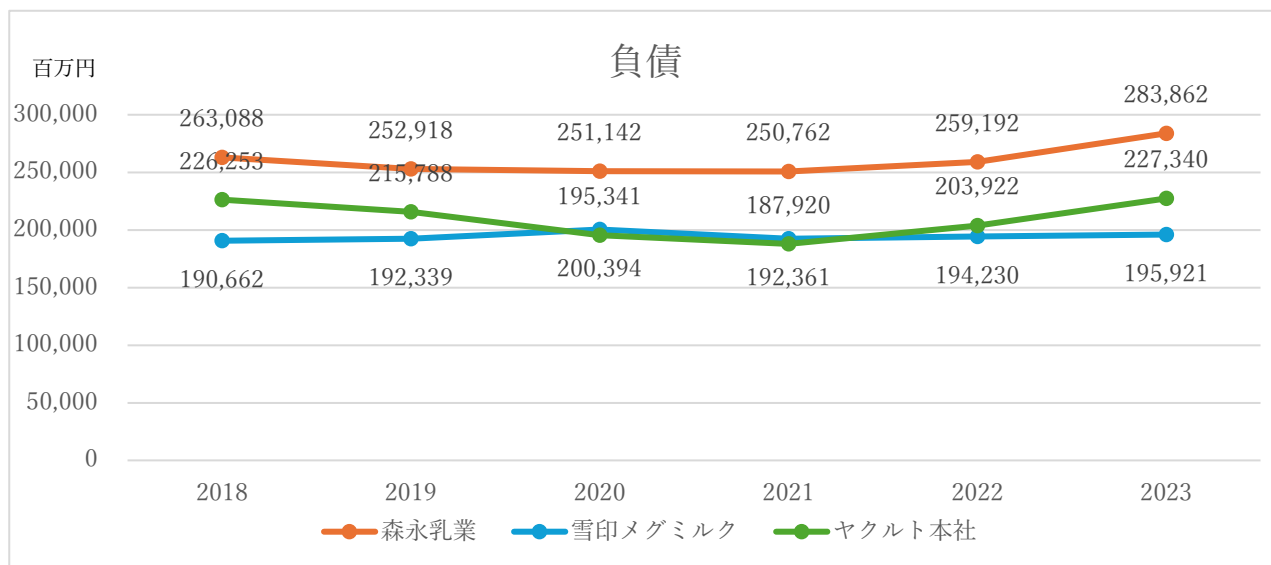
## 総資産比較



資産とは過去の取引などの結果として、現在時点において企業が保有しており、将来、企業に現金収入をもたらすような用役（サービス）便益（ベネフィット）を提供すると期待される経済的資源のこと。総資産はこの資産の総合計である。

ヤクルト本社は「ヤクルト 1000」やリニューアル発売した「ヤクルト 400W」を中心に新規顧客を獲得したことで、総資産が増加している。森永乳業も中長期計画にむけた取り組みのおかげで、緩やかに増加している。雪印メグミルクはあまり変化がない。

## 負債合計比較

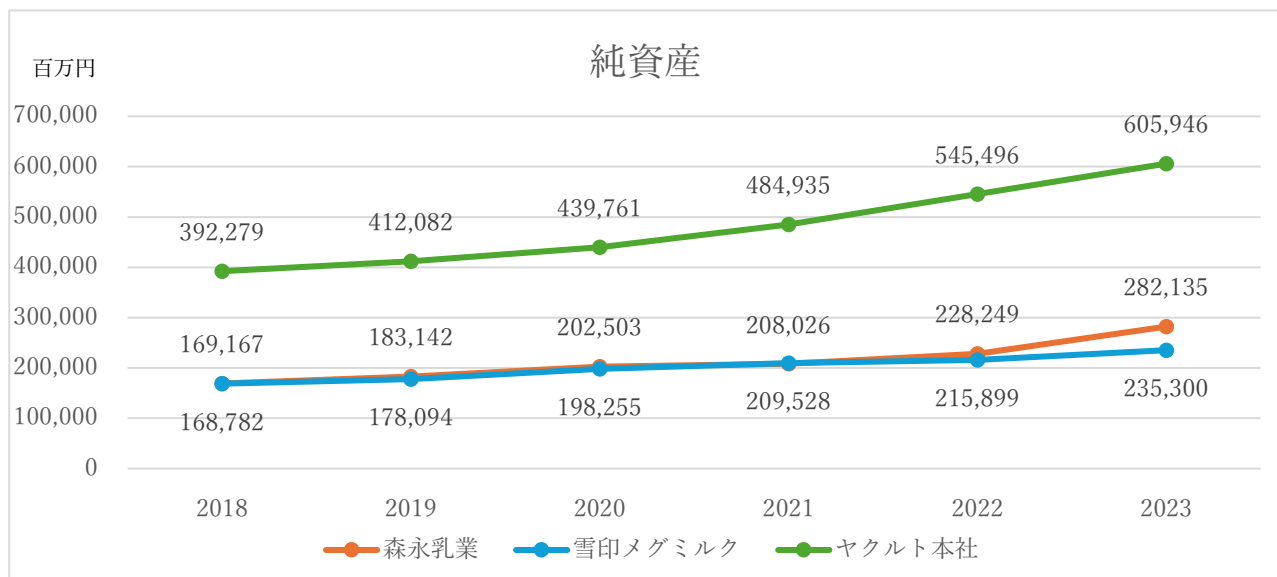


負債とは過去の取引などの結果として、現在時点において企業が負っている、将来債権者に現金を支払う、現金以外の資産を引き渡す、またはサービスを提供することによって経済的資源を引き渡す義務のこと。

ヤクルト本社は 2020 年、2021 年と一時負債が減少したが、2022 年から再び増加した。

森永乳業と雪印メグミルクはあまり変化がない。

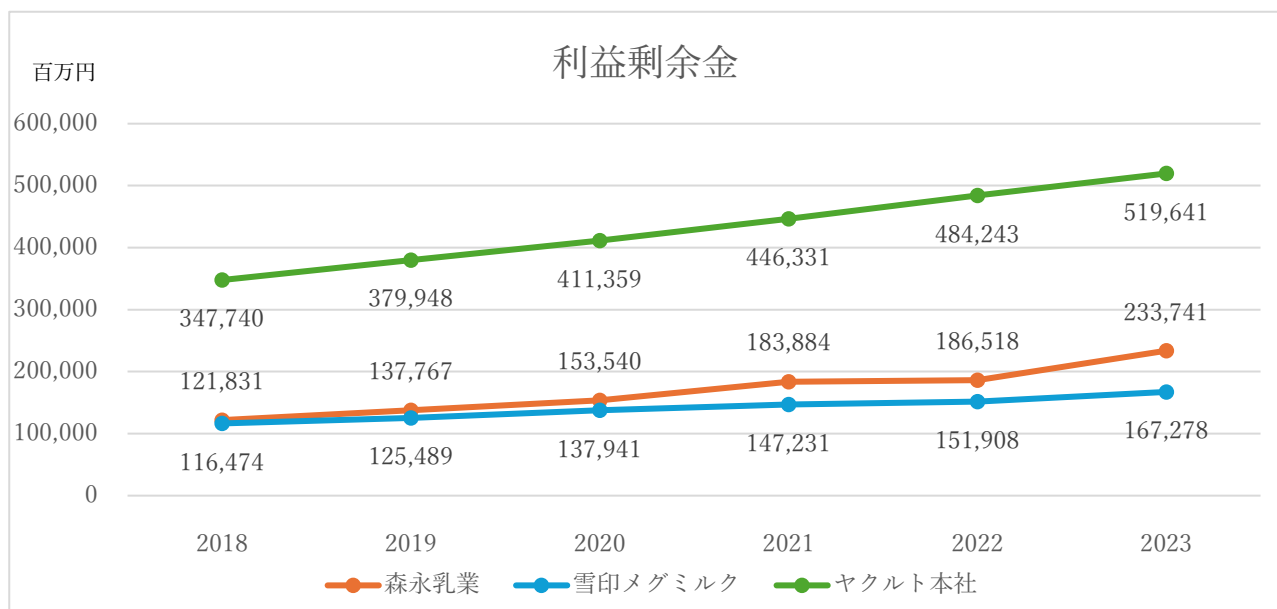
## 純資産合計比較



純資産とは、資産の総額から負債の総額を控除した残りの金額のことである。

どの年もヤクルト本社が最も純資産が多い。雪印メグミルクと森永乳業はほぼ等しい。

## 利益剰余金比較

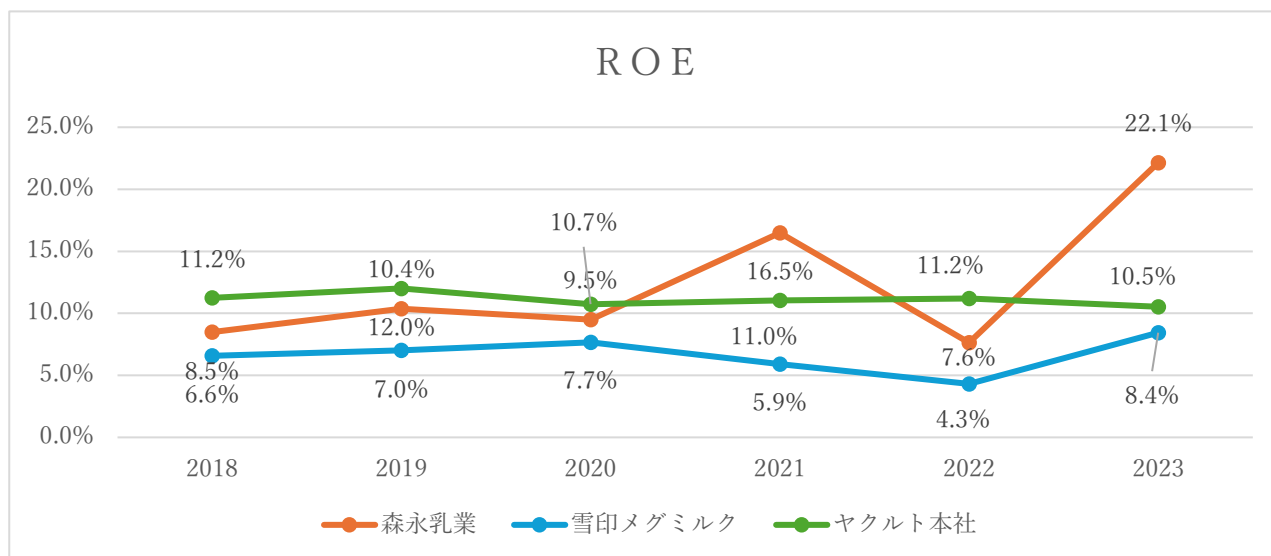


利益剰余金とは、企業が過去から当期末までに計上した当期純利益のうち会社内に利益を留保してある残高金額のことである。

純資産と同様に、ヤクルト本社が最も利益剰余金が多く、経営が順調であり資金力に余裕があると言える。雪印メグミルクと森永乳業はほぼ等しい。



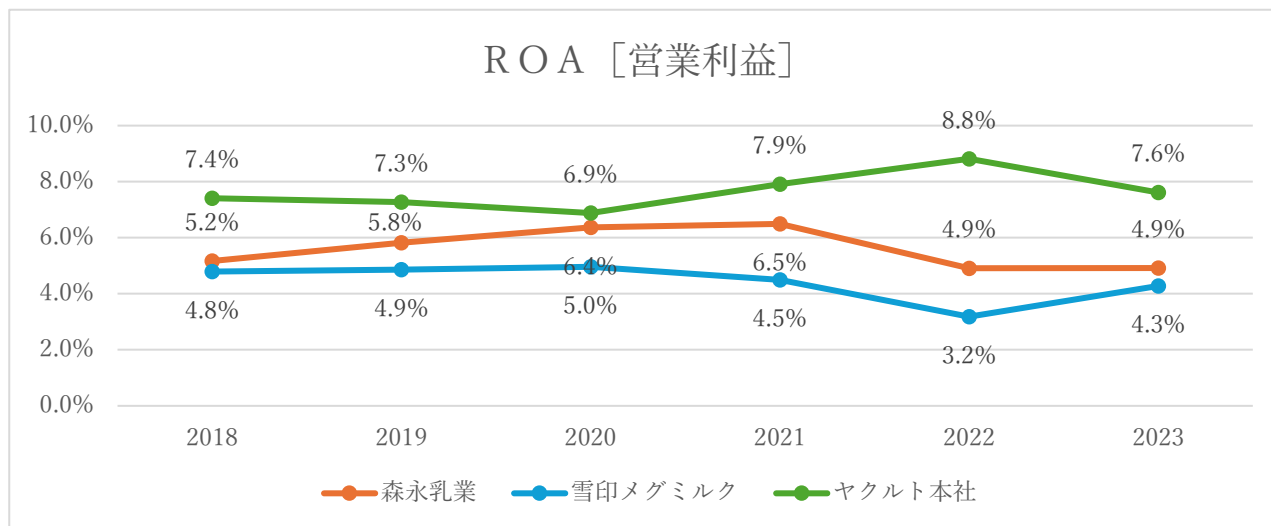
## ROE 比較



ROE は、自己資本純利益率 (return on equity; ROE) のことであり、企業集団の親会社株主にとっての資本利益率である。

森永乳業は 2021 年に増加、2022 年に大幅に減少、2023 年に大幅に増加など増減を繰り返し、2023 年には 22.1% と 3 社トップである。雪印メグミルクは 2022 年に僅かに減少しているものの、10% 台をキープしている。ヤクルト本社は約 8% をキープしている。

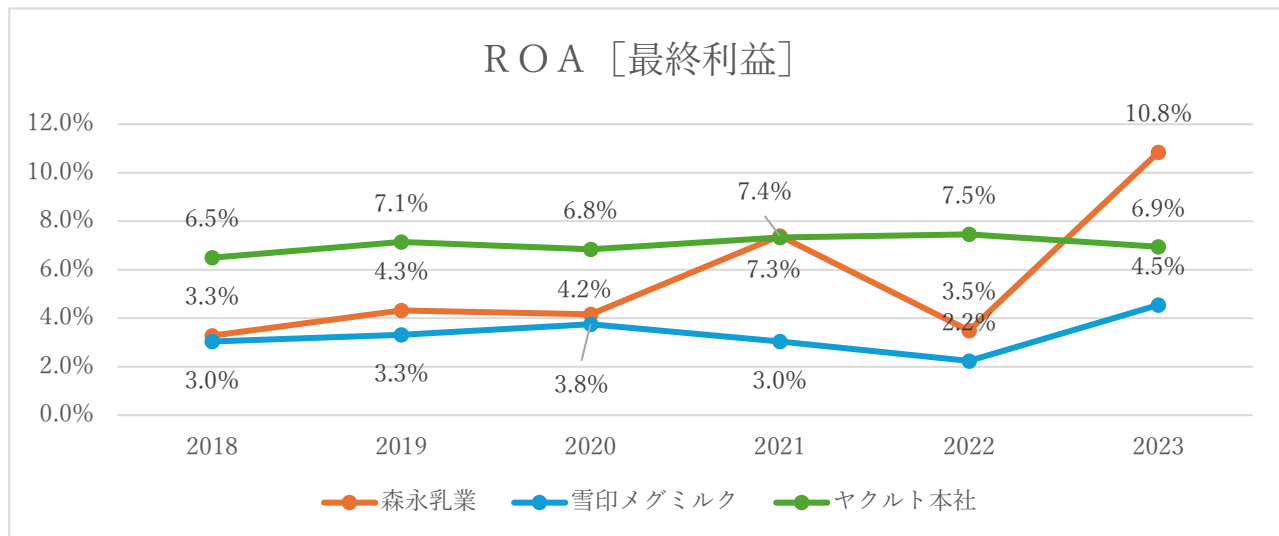
## ROA [営業利益] 比較



総資本利益率・総資産利益率 (return on asset; ROA) のことであり、企業の資金提供者全体(株主と債権者)にとっての資本利益率を意味し、同時に企業の資産全体(総資産)が生み出す利益に関する資本効率を示す。

ヤクルト本社は、2022 年に 8.8% と増加しているがそれ以外の年は約 7% である。森永乳業は 2022 年までは約 6%、それ以降は約 5% である。雪印メグミルクは、2022 年に 3.2% まで減少しているがそれ以外の年は約 4.5% をキープしている。

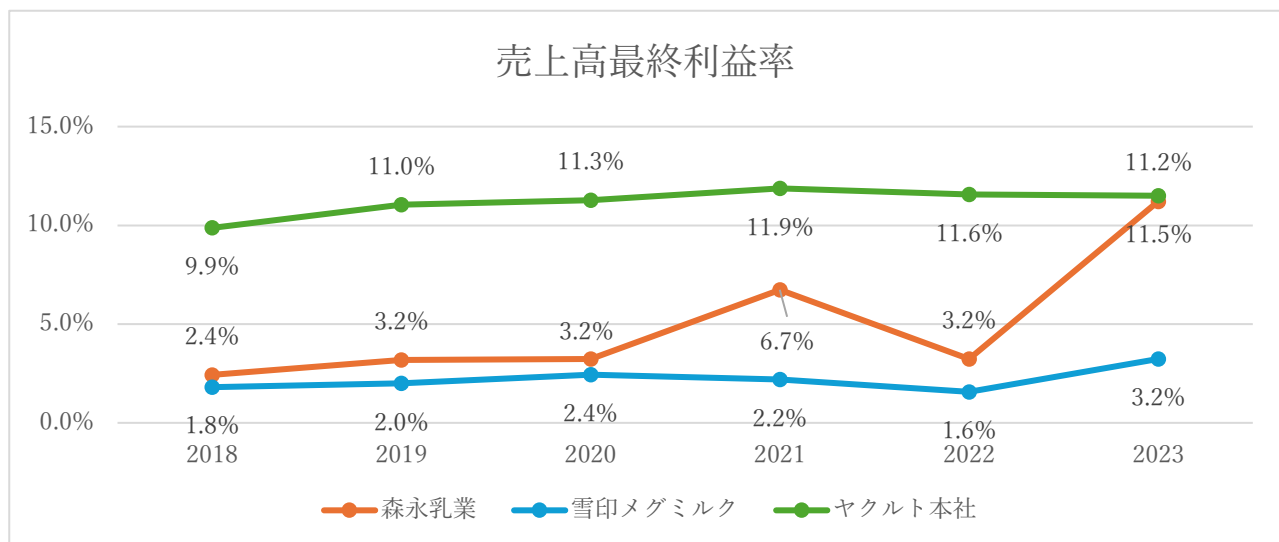
## ROA [最終利益] 比較



雪印メグミルクの ROA [最終利益] の動きは ROA [営業利益] とほぼ等しい。

ヤクルト本社は、約 7% をキープしている。森永乳業は 2020 年から 2021 年にかけて、4.2% から 7.4% へ増加したが、2022 年に 3.5% まで減少し、また 2023 年に 10.8% まで増加するなど、増減が激しい。これは、ROE の動きと同じである。

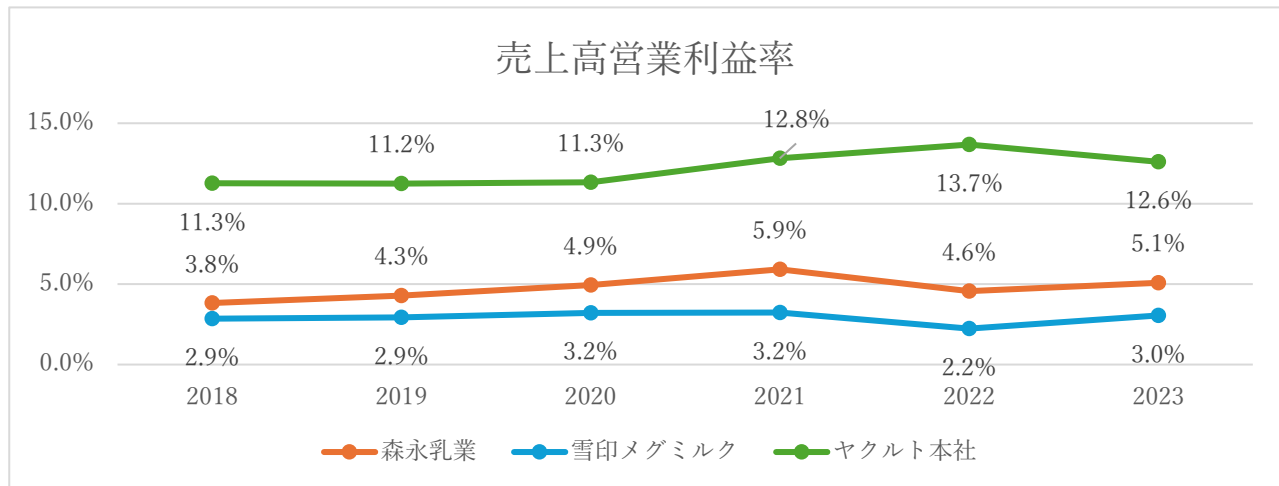
## 売上高最終利益率比較



売上高最終利益率は、売上高に占める親会社株主に帰属する当期純利益（最終利益）の割合であり、高い方が収益の効率性が高いといえる。

ヤクルト本社は、約 11% をキープし 6 年間 3 社のトップである。森永乳業の売上高最終利益率の動きは ROA [最終利益] と同じである。雪印メグミルクは、6 年間で 1.6%~3.2% と大きな変化はない。

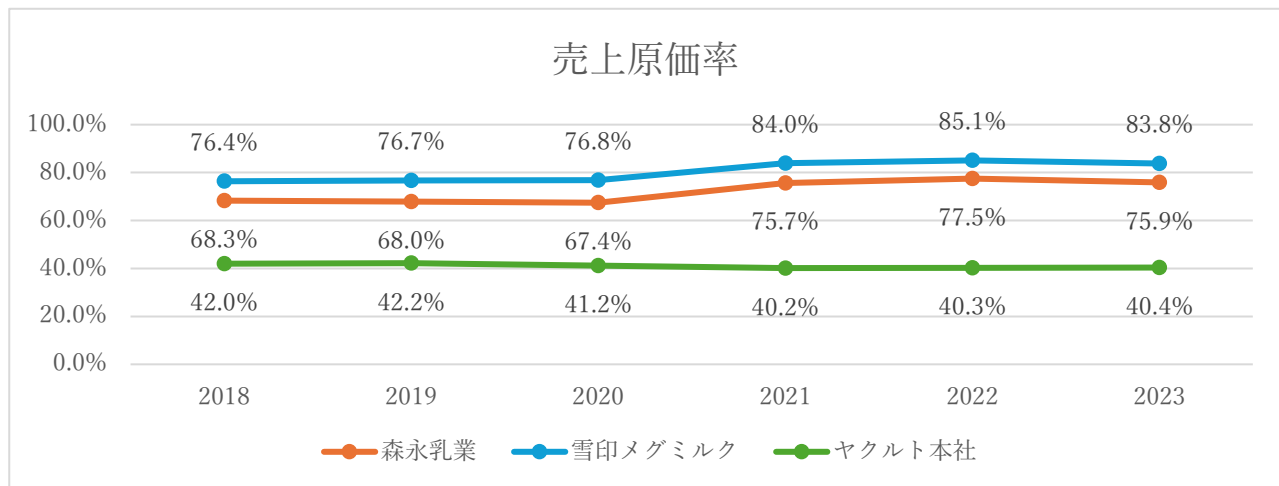
## 売上高営業利益率比較



売上高営業利益率は、売上高に占める営業利益の割合であり、高い方が収益の効率性が高いといえる。

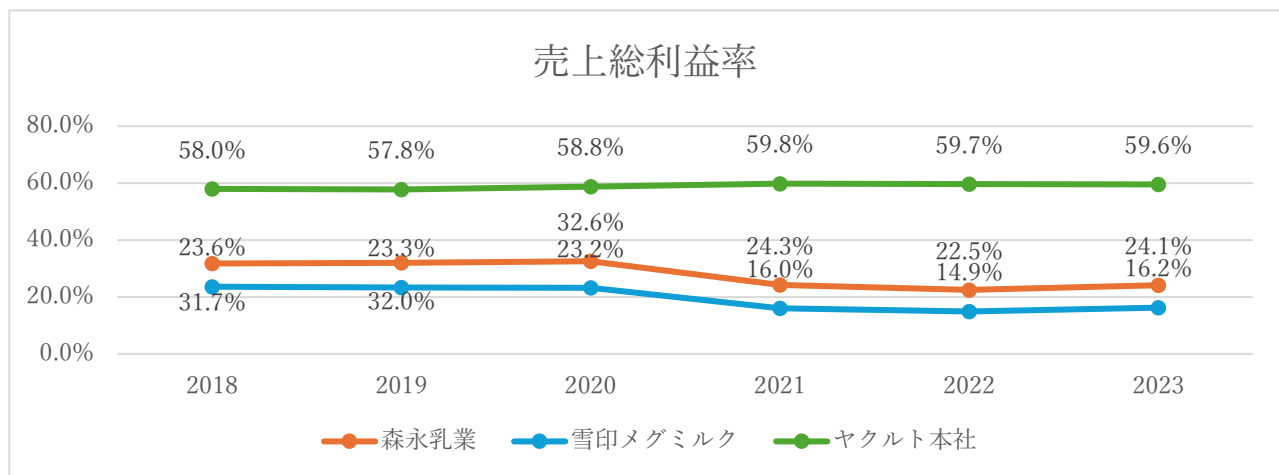
ヤクルト本社は、11.3%~13.7%、森永乳業は 3.8%~5.9%、雪印メグミルクは 2.2%~3.2%と 3 社ともあまり変化がない。ヤクルト本社が最も高く、他の 2 社に比べ収益の効率性が高いと言える。

## 売上原価率比較



売上原価率は、売上高に占める売上原価の割合であり、低い方が収益の効率性が高いといえる。雪印メグミルクは 76.4%~84.0%、森永乳業は 67.4%~77.5%、ヤクルト本社は 40.2%~42.2%とあまり変化がない。3 社の売上高営業利益率と逆の順序であるため、やはりヤクルト本社が他の 2 社に比べ収益の効率性が高いと言える。

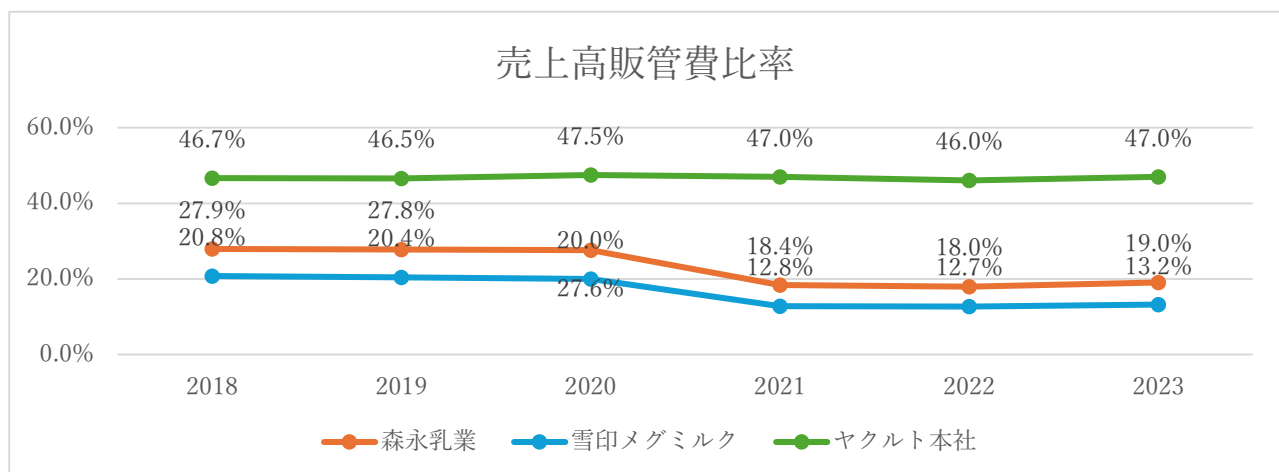
## 売上総利益率比較



売上総利益率は、売上高に占める売上総利益の割合であり、高い方が収益の効率性が高いといえる。

3社とも売上総利益率の動きは売上原価率の動きを逆にしたものと同じである。ヤクルト本社が他の2社に比べ収益の効率性が高いと言える。

## 売上高販管費比率比較

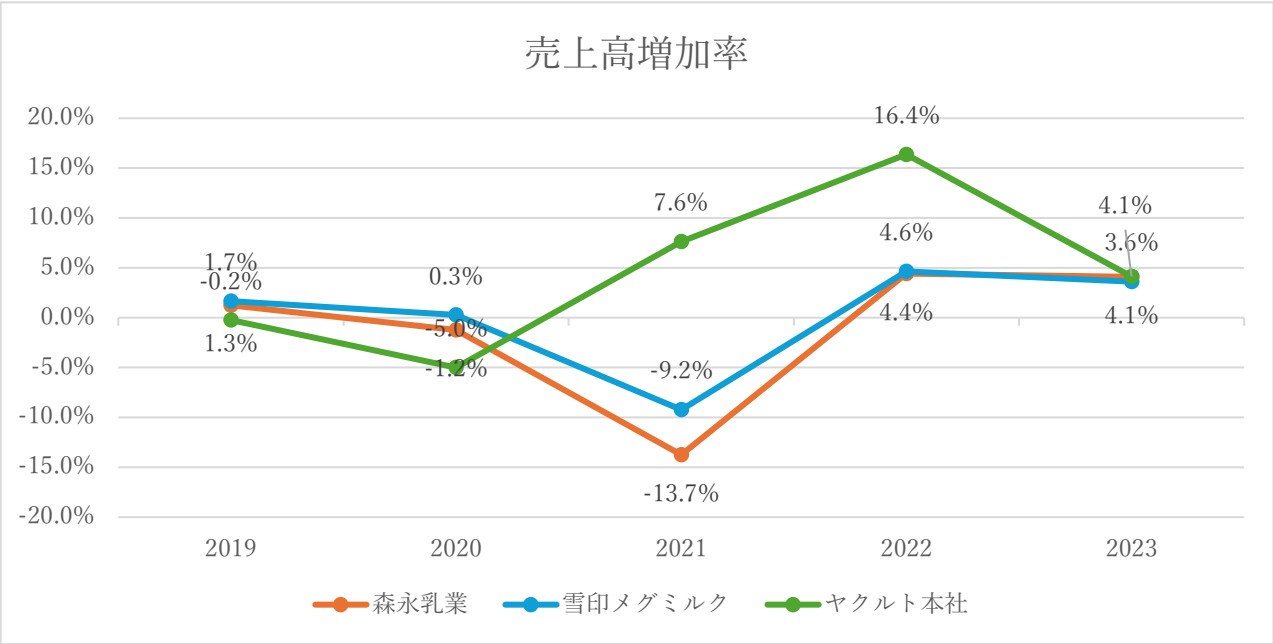


売上高販管費比率は、売上高に占める販売費及び一般管理費の割合であり、低い方が収益の効率性が高いといえる。

3社とも売上高販管費比率の動きは売上総利益率と同じである。だが、売上高販管費比率は低い方が収益の効率性が高いため雪印メグミルクが最も効率がいいと考える。

成長性分析

売上高増加率比較

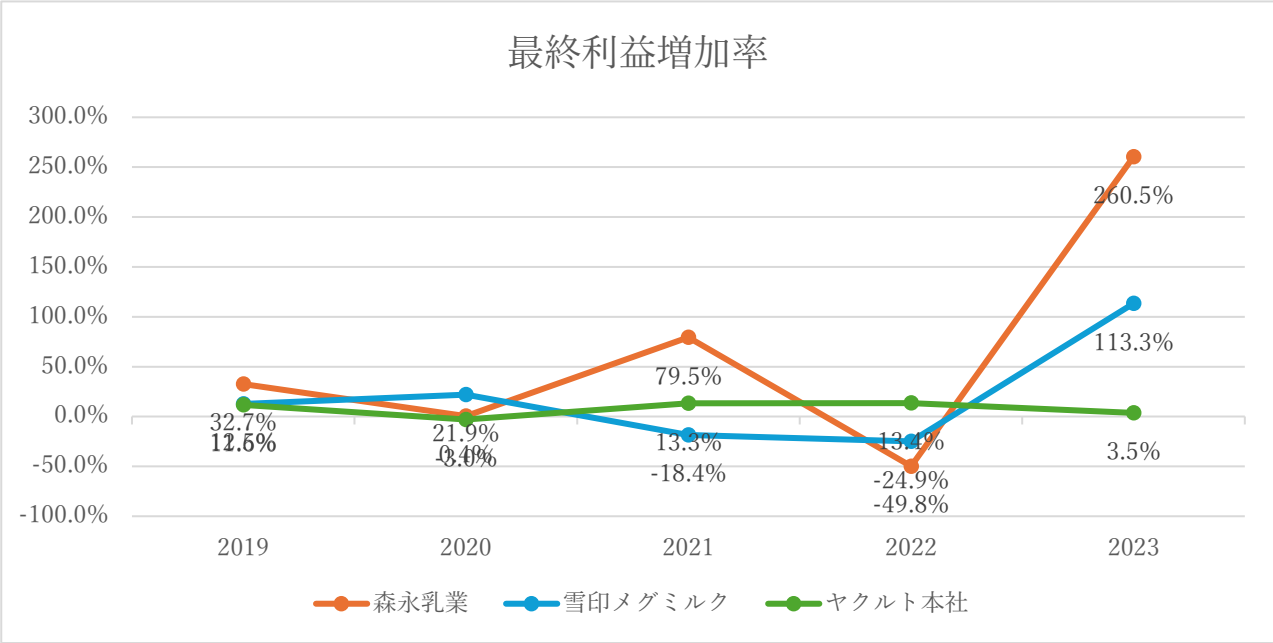


売上高増加率	2019	2020	2021	2022	2023	5 年平均
森永乳業株式会社	1.3%	-1.2%	-13.7%	4.4%	4.1%	-1.0%
雪印メグミルク株式会社	1.7%	0.3%	-9.2%	4.6%	3.6%	0.2%
株式会社ヤクルト本社	-0.2%	-5.0%	7.6%	16.4%	4.1%	4.6%

2021 年において、ヤクルト本社は 7.6%売上高を増加させているが、一方で雪印メグミルクは-9.2%、森永乳業は-13.2%と減少している。ヤクルト本社は、2022 年に 16.4%と最も売上高を増加させている。

5 年間の平均では、森永乳業は-1.0%と減少し、雪印メグミルクは 0.2%、ヤクルト本社は、4.6%と増加している。

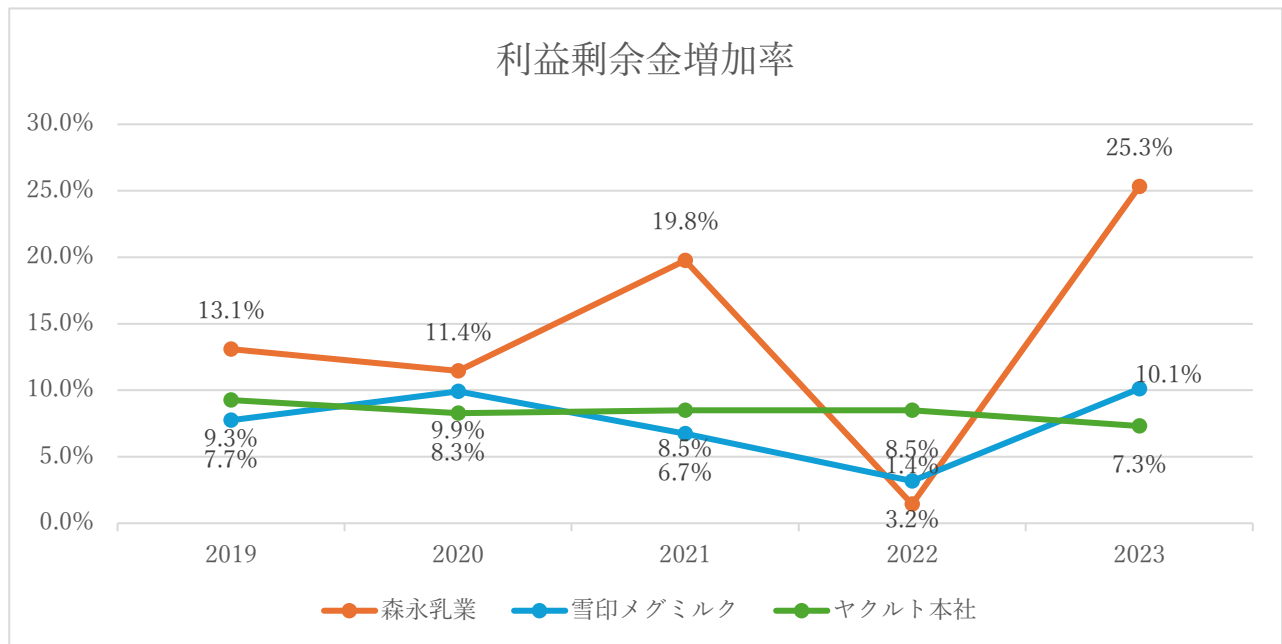
最終利益増加率比較



最終利益増加率	2019	2020	2021	2022	2023	5年平均
森永乳業株式会社	32.7%	0.4%	79.5%	-49.8%	260.5%	64.6%
雪印メグミルク株式会社	12.5%	21.9%	-18.4%	-24.9%	113.3%	20.9%
株式会社ヤクルト本社	11.6%	-3.0%	13.3%	13.4%	3.5%	7.8%

森永乳業は2022年で-49.8%と減少したものの、2023年には260.5%と大幅に増加している。ヤクルト本社は、目立った増加はない。雪印メグミルクは2022年から2023年にかけて113.3%増加している。5年間の平均では3社とも増加しているが、森永乳業が64.6%と最も増加している。

## 利益剰余金増加率比較



利益剰余金増加率	2019	2020	2021	2022	2023	5年平均
森永乳業株式会社	13.1%	11.4%	19.8%	1.4%	25.3%	14.2%
雪印メグミルク株式会社	7.7%	9.9%	6.7%	3.2%	10.1%	7.5%
株式会社ヤクルト本社	9.3%	8.3%	8.5%	8.5%	7.3%	8.4%

3社とも利益剰余金増加率の動きは最終利益増加率と同じである。5年間の平均では3社とも増加しているが、森永乳業が14.2%と最も増加している

## ROE分析

$$\text{ROE} = \text{売上高最終利益率} \times \text{総資本回転率} \times \text{財務レバレッジ比率}$$

### 森永乳業株式会社

	売上高最終利益率	総資本回転率 (回)	財務レバレッジ 比率 (倍)	ROA [最終利 益]	ROE
2018年3月	2.4%	1.35	2.58	3.3%	8.5%
2019年3月	3.2%	1.36	2.41	4.3%	10.4%
2020年3月	3.2%	1.29	2.28	4.2%	9.5%
2021年3月	6.7%	1.10	2.23	7.4%	16.5%
2022年3月	3.2%	1.08	2.19	3.5%	7.6%
2023年3月	11.2%	0.97	2.04	10.8%	22.1%

### 雪印メグミルク株式会社

	売上高最終利益率	総資本回転率 (回)	財務レバレッジ 比率 (倍)	ROA [最終利 益]	ROE
2018年3月	1.8%	1.68	2.16	3.0%	6.6%
2019年3月	2.0%	1.66	2.12	3.3%	7.0%
2020年3月	2.4%	1.54	2.04	3.8%	7.7%
2021年3月	2.2%	1.39	1.94	3.0%	5.9%
2022年3月	1.6%	1.42	1.93	2.2%	4.3%
2023年3月	3.2%	1.40	1.86	4.5%	8.4%

### 株式会社ヤクルト本社

	売上高最終利益率	総資本回転率 (回)	財務レバレッジ 比率 (倍)	ROA [最終利 益]	ROE
2018年3月	9.9%	0.66	1.73	6.5%	11.2%
2019年3月	11.0%	0.65	1.68	7.1%	12.0%
2020年3月	11.3%	0.61	1.57	6.8%	10.7%
2021年3月	11.9%	0.62	1.51	7.3%	11.0%
2022年3月	11.6%	0.64	1.50	7.5%	11.2%
2023年3月	11.5%	0.60	1.52	6.9%	10.5%



## 森永乳業の ROE 分析

森永乳業の ROE は 2021 年と 2023 年の売上高最終利益率が高いときにそれに伴って増加している。総資本回転率と財務レバレッジ比率は比較的安定していてあまり変化がないので売上高最終利益率を増加させることが ROE の増加につながると考える。売上げを増加させるために、森永乳業の中長期計画の数値目標である海外売上高比率 15%以上を目指すことが重要である。国内だけでなく国外にも事業を拡大することで売上高最終利益率を増加させ、それが ROE の増加につながると考える。

## 雪印メグミルクの ROE 分析

雪印メグミルクは ROE が 2023 年を除いて、8%未満である。これは他の 2 社に比べ、売上高最終利益率が低いことが原因だと考えられる。なので、まずは売上を上げていく必要がある。具体的にはスローガンや使命に書かれている「乳」に力を入れつつも他の事業も広げていくことが売上げの増加につながると考える。そしてそれが ROE の増加にもつながるだろう。

## ヤクルト本社の ROE 分析

ヤクルト本社は他の 2 社と比べて唯一 ROE が 6 年間 10%を超えている。これは独自の商品である「ヤクルト」シリーズに安定した需要があることで売上高最終利益率を高く保てていると考える。次年度以降も、長期持続的に 10%以上の ROE を維持し続けるには「ヤクルト」シリーズの人気を絶やさないことである。具体的には、ヤクルト本社の課題として挙げられているヤクルトレディの人材確保である。商品自体に人気があっても購入できなければ今後買いたいと思わなくなるだろう。よってヤクルトレディをはじめとした商品の販売体制に力を入れることが売上高最終利益率の増加につながり、ROE の増加にもつながるだろう。

## 設問⑤ 企業分析のまとめ：企業の将来性

このレポートでは、「森永乳業株式会社」、「雪印メグミルク株式会社」、「ヤクルト本社」の3企業について分析を進めてきた。以下はそのまとめである。

まず森永乳業株式会社について、森永乳業株式会社の強みは売上高・シェアランキングが業界1位であることだ。売上高だけを見ると雪印メグミルクの方が僅かに高いが、赤ちゃんからシニアまで幅広い年齢層に向けた商品を提供していることが高いシェア率を保っているのだと考える。今後さらに売り上げを伸ばし、企業を発展させていくには海外への事業拡大が必要である。そのために、海外の消費者の求めているものを調査しそれに合った商品開発を進めていく必要があると考える。また、2022年から2023年にかけて最終利益が17,019から61,347と大幅に増加している。この増加をこの先も継続していくことができれば将来性が非常に高いと考える。

次に雪印メグミルク株式会社について、雪印メグミルク株式会社の強みは男性の育児休暇取得率が高いことやリモートワークなど従業員のための制度が充実している所である。商品を開発する側の人が高いモチベーションをもって仕事に取り組むことができるのは、より良い商品開発につながると考える。今後さらに成長していくには、現在力を入れている「乳」以外にも目を向けることである。そしてそれを海外にも拡大させていくことが、雪印メグミルク株式会社の弱みであるあまり海外展開していない点を改善し企業の成長につながると考える。

最後に株式会社ヤクルト本社について、株式会社ヤクルト本社の強みは「ヤクルト」シリーズの知名度の高さである。この人気絶えない限り、安定した高い売上高最終利益率やROEを保っていくことができるだろう。この安定性を守っていくためにも「ヤクルト」ブランドのイメージを損なわない努力が必要だと考える。

3社ともコロナウイルスが流行したことで人々の健康意識が高まり、高付加価値商品の売り上げが伸びている。今後さらに新しい菌やウイルスが出現する可能性は高い。そして、そういったものの対策として免疫を高めるなどといった機能のある高付加価値商品が求められるので、3社とも売上は安定するだろう。そして売上が安定するという事は将来性も非常に高いと考える。

### 参考文献

矢部孝太郎編著「財務報告論 第3版」中央経済社

森永乳業株式会社 <https://www.morinagamilk.co.jp/>

雪印メグミルク株式会社 <https://www.meg-snow.com/>

株式会社ヤクルト本社 <https://www.yakult.co.jp/>

EDINET <https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/>